

# 平成28年度事業報告

## 1 研究テーマ

酒造用原料米の酒造適性に関する研究

## 2 研究の現況・進捗状況

### (1) 概要

酒米研究会は、原料米の酒造適性を総合的に研究すること及び当該酒造期に使用される原料米の性質をできるだけ早期に把握し、それぞれの原料米に適した酒造管理を行えるようにすることを目的としている。

主な活動は、酒米研究会総会及び酒米懇談会の開催並びに原料米の全国統一分析である。また、本会は酒類製造技術者のみならず、育種・栽培関係者、米に関する研究者等、広く酒米に関心を持つ者も会員として受け入れている。現在の会員構成は、266名の個人と4機関から成っている。

酒米懇談会(第40回、平成28年9月1日開催)においては、(2)口に掲げるように、5名の講師先生に、様々な観点から話題提供をお願いし、活発な意見交換がなされ、参加者にとって大きな収穫になった。

原料米の全国統一分析は、27年度産米について例年どおり行い、85品種、246点の原料米の分析値及び予測される性質について、(3)刊行物の発行等に掲げる文書により、関係者に報告した。

平成28年度産米については、酒類総合研究所が実施する早期(0次)酒造適性分析のための試料として、酒類総合研究所に試料提供した。酒類総合研究所で実施された早期(0次)酒造適性分析の結果について、詳細な解析を行い本年度の原料米の酒造適性情報として12月2日付で各支部に報告した。また、12月上旬までに各支部において分析を終了した結果を第1次の速報として12月16日付で、3月末日までに終了した結果を第2次の結果として3月31日付で関係者に報告した。

### (2) 研究会開催等

イ 平成28年度酒米研究会総会、第42回酒米研究会

① 開催月日 平成28年5月25日(火)

② 開催場所 東広島市西条栄町7番19号

東広島芸術文化ホール くらら

③ 配布資料:平成27年度事業報告、平成27年度決算及び28年度予算案、平成27年度産米の分析結果及び平成28年度産米の分析計画等

ロ 平成28年度酒米研究会臨時総会

① 開催月日 平成28年9月1日(木)

② 開催場所 東京都北区西ヶ原1-23-3 滝野川会館 小ホール

③ 議案:平成28年度事業計画変更案、平成28年度予算変更案、第43回酒米研究会・平成29年度酒米研究会総会・第41回酒米懇談会開催計画

ハ 第40回酒米懇談会

① 開催月日 平成28年9月1日(木)

② 開催場所 東京都北区西ヶ原1-23-3 滝野川会館 小ホール

③ 講演内容

1)「DNA判定技術と米品種に関するDNA検査の利用例」

株式会社サタケ 前原峰雄 先生

2)「酒米胴割れについての調査結果」

新中野工業株式会社 小澤宏行 先生

3)「清酒と原料米のフェノール酸関連化合物」

秋田県立大学生物資源科学部 橋爪克己 先生

4)「「山田錦」が保有する特性の遺伝解析」

神戸大学大学院農学研究科 山崎将紀 先生

5)「高温条件下におけるコメの外観品質低下と開花時の不稔発生の軽減に向けた基盤的研究」

農研機構 中央農業研究センター 石丸 努 先生

④ 出席者76名

(3) 刊行物の発行等

- ・第40回酒米懇談会要旨集（平成28年9月）
- ・平成27年度酒造用原料米全国統一分析結果（平成28年5月）
- ・平成28年度早期酒造用原料米全国統一分析解析結果（0次）（平成28年12月2日）
- ・平成28年度酒造用原料米全国統一分析結果（1次）（平成28年12月16日）
- ・平成28年度酒造用原料米全国統一分析結果（2次）（平成29年3月31日）

(4) 研究連絡活動

(4-1)原料米全国統一分析

イ 研究会支部の状況

原料米全国統一分析に参加しているグループ数は、平成28年11月末現在で、試料の採取を依頼している機関を含めて30機関である。

ロ 平成27年度産米の分析

平成28年1月～3月の間に、前年から引続き平成27年度産米の分析を行い、85品種246点についての分析結果を集計し、平成28年5月31日付で日本酒造組合中央会 会長及び分析を担当した各支部に報告した。

ハ 平成28年度産米の分析

① 早期分析(0次分析)のデータ解析

平成28年度産米の早期酒造適性分析のための試料を酒類総合研究所に提供した(75点)。酒類総合研究所にて実施された酒造適性分析のデータ及び各支部からの造り初期の酒造概況、気象・収穫に関するデータを詳細に解析し、平成28年度産米の性質の早期予測(0次)として平成28年12月2日付で日本酒造組合中央会会長及び各支部等に周知した。

② 1次分析

各支部において12月上旬までに分析の終了した原料米について結果をまとめ、0次分析結果と合わせ平成28年度産原料米の性質を予報し、平成28年12月16日付で日本酒造組合中央会会長及び各支部等に報告した。

③ 2次分析

各支部において3月末日までに分析の終了した原料米について結果をまとめ、0次・1次結果と合わせ合計88品種269点の結果を2次分析結果として、平成29年3月31日付で日本酒造組合中央会会長及び分析を担当した各支部等に報告した。

(4-2)ホームページ

酒米研究会ホームページ(<http://www.sakamai.jp/>)において、酒米分析結果のデータ及び結果概要を更新し、会員間で有効に活用された。